

## 東日本大震災義援金お礼について

このたびは大熊町および町民に対し、心温まる義援金を賜り誠にありがとうございました。

大熊町は震災発生以降、原子力発電所の事故により全町民避難という大変過酷な状況が続いております。

現在も役場機能をふるさと大熊町から西に約100km離れた会津若松市に移し、町民は会津若松市を始めとする全国各地に避難を余儀なくされております。

当町の復興の現状ですが、平成24年12月の避難区域の見直し後も町内の放射線量は依然として高く、容易には立ち入れないため思うように復興を進めることができず、中間貯蔵施設や長引く避難生活と相まって町民には大変不安な思いをさせております。その中でも、ようやく放射線量が比較的低い地区の除染が行われ、帰町への一步を踏み出すことができたところであります。

しかしながら、町民の96%が住んでいた地域は高線量地域であり、今だ本格的な除染に入ることができません。そのため、いつ帰町できるのかが判断できず、町も町民も将来像が描けないということが最大の課題となっております。

このような中でいただきました皆様からのご厚志には、町民共々心強く励まされました。この義援金は、被害に遭われた町民が一日でも早く元の生活にもどれるよう生活再建の援助金として活用させていただきます。

町といたしましても、復興に向け職員一丸となって全力で取り組んでまいりますので、今後ともご支援ご協力のほど、よろしく願いいたします。

本来であればお伺いして御礼申し述べるところ、略儀ではございますが、書面をもってご厚情に対し心から御礼申し上げます。

平成27年12月

大熊町長 渡辺 利綱